

日常臨床下での大腸癌一次化学療法におけるセツキシマブ併用療法の安全性・有効性の検討

大腸癌の治療で、セツキシマブを初回の抗がん剤治療で用いた際の診療情報を収集し、その効果や安全性について調査する。

研究対象者の方へ

当研究は当院において、2010年3月から2013年9月末までに、大腸癌の初回の抗がん薬治療でセツキシマブを用いた人を対象にしています。すでに実施された診療についてのデータを調べますので、採血などの新たなご負担はありません。なお、上記対象に該当する方で、当研究で診療データを使用することを希望されない場合は、お手数ですが下記連絡先にご連絡をお願いいたします。

はじめに

セツキシマブは2008年7月より、再発の大腸癌の治療薬として日本で使われていますが、2010年3月より初回の抗がん薬治療でも使用が可能となりました。初回の抗がん薬治療は、再発の場合に比べ、複数の抗がん薬が併用される場合が多く、またその投与期間も長くなる傾向があります。セツキシマブを初回の抗がん薬治療で用いた日本人のデータは、まだそれほど多くはありません。

研究内容

大腸癌の治療で、セツキシマブを初回の抗がん薬治療で用いた際の診療情報を収集し、その効果や安全性について調べます。

個人情報保護について

この試験で得られた診療情報は、この治療法の安全性と効果を確認するための資料として使用します。個人情報の管理が安全に図られるよう十分に配慮し、利用目的に必要なない実名や生年月などの情報を収集したり、個人が特定される可能性がある情報を公表したりはいたしません。

研究期間

研究を行う期間は2013年10月1日までを予定しております。

医学上の貢献

セツキシマブは初回の抗がん薬治療のひとつとして有用であると考えられており、日本人におけるそうした情報を積み重ね、日本の医療環境で注意すべき副作用やその対策を明らかにすることで、セツキシマブをより安全に使用したり、より効果的に使用したりすることが可能になりますので、医学上の貢献が十分にあると考えます。

連絡先

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1 丁目 3-46 済生会福岡総合病院
Tel092-771-8151 化学療法外来

責任医師／松浦 弘

担当医師／江見 泰徳